

『失われた手稿譜』 東京創元社
フェデリーコ・マリア・サルデッリ／著
関口 英子・栗原 俊秀／訳

「和声と創意の試み」「調和の
靈感」などで知られる、バロッ
ク音楽の大家アントニオ・ヴィ
ヴァルディの遺した手稿譜（自
筆楽譜）を巡るノンフィクショ
ン小説。遺族、関心を寄せる貴
族、価値を知らない修道士、商
人など多くの人物の思惑が交錯
し、手稿譜は数奇な運命をたど
る。



音楽家でヴィヴァルディ研究の第一人者である著者は、膨大な資料を調べて一つの物語に再構築した。その手腕によって冒頭から引き込まれた読者は、18世紀のイタリアへと誘われる。次第に、楽譜が単なる物ではなく人格を伴う者であるかのような感覚を覚え、物の価値、さらには芸術の価値についても問い掛けてくるように感じるだろう。